

支倉常長フェロー報告書



提出日 2010年09月07日

申請者	氏名	高木 祐介
	所属・職	循環器病態学分野・大学院3年生
出張期間	2010年08月29日～09月03日	
渡航先	スウェーデン・ストックホルム	
渡航目的	ヨーロッパ心臓病学会参加	
発表演題名あるいは共同研究課題名	Importance of dual induction tests for coronary vasospasm and ventricular fibrillation in the decision-making for the management of patients with out-of-hospital cardiac arrest	

得られた成果など

支倉フェローシップのご支援を頂き、8月28日～9月1日の期間にストックホルムにて開催されたヨーロッパ心臓病学会（ESC Congress 2010）に参加した。8月31日、ポスターセッションにて、演題「**Importance of dual induction tests for coronary vasospasm and ventricular fibrillation in the decision-making for the management of patients with out-of-hospital cardiac arrest**」の発表を行った。

院外心停止は全世界的に重要な疾患であり、蘇生例の長期予後改善のためには、心停止の病態解明と、個々の原因に応じた治療が不可欠である。院外心停止の成因の多くは急性冠症候群をはじめとした器質的心疾患であるが、一部に明らかな異常を同定できない例が存在する。本演題は、これら器質的心疾患を認めない院外心停止蘇生例において、冠動脈攣縮と心室細動の両者が心停止発症の成因として重要であることを初めて示し、その長期予後、並びに埋め込み型除細動器の有用性を検討したものである。今回発表した我々の知見は、院外心停止の病態の理解、及び蘇生例の長期予後改善に寄与すると考える。

循環器領域の大規模な国際学会として、過去2年間アメリカ心臓協会（AHA）の年次学術集會に参加したが、本学会はそれと比較しても活気に溢れ、超満員の会場では多彩な演題に関して盛んな意見交換が行われていた。参加者の国籍が多岐にわたることも特色の一つであった。多くの研究成果に触れることができ、非常に有意義な学会参加であった。

このような素晴らしい機会を頂いたことに深謝申し上げます。



Main entrance



ポスター会場にて